

全員協議会資料

件名：アイヌ文化財に係る文化振興について

令和5年3月15日

生涯学習課社会教育グループ

アイヌ文化財に係る文化振興について（報告）

1 出土品に係る経緯と現状

○平成 14 年度から 15 年間の厚真川上流域での厚幌ダム建設事業に係わる埋蔵文化財発掘調査

- ・平成 23 年・2011 年 2 月 文化庁文化財部美術学芸課から特段の保存保管管理を求める通知
- ・平成 28 年・2016 年まで：本郷遺跡調査整理事務所（旧かしわ保育園）温湿度管理防湿庫で保管 ※保管庫から出すことができない状況。
- ・平成 28 年・2016 年から：軽舞遺跡調査整理事務所特別収蔵庫内を整備し保管
※ 特別収蔵庫：文化庁基準（温湿度・防火・防犯等）の保管区画室
※ 特別収蔵庫内での公開。平常時は収蔵庫内の防湿庫にて保管
- ・平成 30 年・2018 年 3 月 苫小牧駒澤大学から厚真町上野地区発見の丸木舟返却（2019 年町指定文化財）
- ・令和 2 年・2020 年 9 月 アイヌ遺骨安置棚の整備
- ・令和 3 年・2021 年 9 月 文科省アイヌ遺骨等地域返還連絡室の了解を得てアイヌ遺骨の地域返還 ※札幌医科大学→厚真アイヌ協会→厚真町寄託保管

○活用状況

- ・平成 23 年・2011 年 NHK 番組放送：全国放送 1 件・北海道放送 1 件
- ・平成 29 年・2017 年 文化庁主催の全国巡回展「発掘された日本列島展」出品
- ・シンポジウム開催 平成 23 年・2011 年（町民向け約 50 人）
平成 27 年・2015 年（全国向け 2 日間：延べ 200 人）
- ・教員免許状更新講習 苫小牧駒澤大学主催（厚真会場・巡見）
平成 23 年・2011 年～令和元年・2019 年 計 9 回（各 50 人）
- ・各種専門研究誌、論文学術書や一般概説書、等への写真掲載多数
- ・各種専門家・大学関係者講義での厚真町出土資料画像活用
- ・一部青少年センターでの企画展示や町民文化祭での展示
- ・厚真中学校ふるさと学習アイヌ文化調べ
- ・シンガポール国営放送のアイヌ文化の特集番組にも厚真町の出土品が紹介
- ・昨年初めて軽舞事務所特別公開日を設け、アイヌ文化財を公開、20 名以上の町民参加

○特に貴重な出土品を厚真町有形文化財として町指定

- ・出土品

アイヌ文化財：厚幌ダム関連（平成 14 年度・2002 年度～平成 28 年度・2016 年度調査）の出土品

資料の年代：今から約 1,000 年前の擦文文化期～約 400 年前の近世アイヌ文化期の資料

資料の種類：出土品は人骨や擦文土器、常滑壺、金属製品、ガラス玉、漆器類、炭化物、骨角器、丸木舟など数千点

・厚真町指定有形文化財

物件名：厚幌ダム遺跡群出土の擦文・アイヌ文化期の精神及び葬送儀礼に伴う遺物群

指定日：令和4年11月25日

- ・今から約1,000年前の擦文時代、約800年から400年前にかけてのアイヌ文化期に帰属する儀礼場跡やお墓から出土した埋蔵文化財
- ・アイヌ民族の伝統儀式「カムイノミ」のルーツやお墓の葬送儀礼を示す精神文化を代表する第一級の資料群
- ・大学などの研究機関や文化庁からも高い学術的評価
- ・専門的知見からの価値の確定をもって、適切な保管、公開活用のためにも貴重な文化財としての指定

※画像等は別紙を参照。

出土遺跡名	概要	具体的な出土品	点数	特記事項
上幌内モイ遺跡	擦文文化期儀礼場跡一括資料：約1,000年前のアイヌ民族の伝統儀礼カムイノミの源流(道内最古級)	擦文土器・金属製品(刀子・銅鉈・鉄鏃ほか)・骨角器未製品・炭化キビ塊・黒曜石・礫	121点	・多種多量の被熱破碎遺物 →道内初事例 ・板状有孔土製品 →道内初出土の遺物 ・道内5例目の“佐波理鉈”(さはりわん：朝鮮半島産の銅鉈) →貴族や高僧のみが使用。 ・炭化イナキビ塊 →全国初出土。粒径2～3cm程度の団子状の塊 ・土師器・須恵器の出土(円柱造りの土師器は道内初発見 →本州系遺物の流入、多数の鉄製品、山間部でありながら活発な交易活動＝安定的な物流ルート
上幌内モイ遺跡	擦文文化期土坑墓出土品一括資料：約800年前の貴重な出土例	擦文土器・金属製品(刀子・鎌・環状鉄製品)・黒曜石	7点	・これまで発見例が殆どない。黒曜石転礫の出土は擦文からアイヌへの“ミッシング・リンク”(空白の時代)の謎に迫るもの
上幌内モイ遺跡	アイヌ墓副葬品一括資料：約400年前のアイヌ民族の葬送儀礼の変遷	金属製品(鉄鍋・蝦夷太刀・刀子)・骨角器	11点	・銀装飾の蝦夷太刀など、これまでの調査例でも出土しているが、土坑墓形態の変遷を検討するうえで貴重な成果・資料。

オニキシベ2遺跡	アイヌ墓副葬品一括資料:約700年前のアイヌ民族精神文化の発展期の資料	金属製品（鉄鍋・日本刀・その他刀剣類・錫製耳飾・腕輪ほか）・タマサイ（鐔状銅製品・古銭・ガラス玉・メノウ玉）・飾り矢筒・スタンプ文漆器・黒曜石	86点	・スタンプ文の漆器→道内唯一の資料。この資料は「北海道では出土するはずがない」と言われており、鎌倉幕府直結地域での出土品。予想以上に広範囲、活発な中世アイヌ民族の交易活動を裏付ける極めて貴重な資料 ・タマサイ（アイヌ民族の女性の伝統的首飾り）は国内最古級 ・ガラス玉：当時、国内ではガラス製作技術は定着していない ⇒ 外国産で、本州での出土例は極少数に限られる = 北回りの可能性。「国内第一級の一括資料」 ・メノウ玉：アイヌ文化ではメノウ製の玉類の製作技術はない。9世紀～13世紀のロシア沿海地方からアムール川中流域の女真文化のお墓から同じ形態のメノウ製玉類が出土。国内2例目、最多数の出土。 ・鉄製の腕輪：全国2例目の出土例（平成20年度時点）。鉄製品文化の本州には出土例が無いことから、北方系金属製品。 ・日本刀：通常のものより短い刀身（蝦夷拵えか）鉄ハバキ、鉄の鐔 = 鍛造で入念な造り。国内でも極少数例の高価なもの。 ・象嵌の矢筒：国内最古級のアイヌ民具。
上幌内2遺跡	アイヌ墓副葬品一括資料:約800年前の道内最古級かつ多彩な副葬品	金属製品（日本刀・腰刀・その他刀剣類・錫製耳飾・腕輪ほか）・タマサイ（和鏡・コイル状装飾品・古銭・ガラス玉ほか）・漆器類・骨角器・黒曜石	104点	・日本刀→この時期の日本刀出土例は国内でも極少数であり、現存の伝世品も少ない。 ・北海道内最古の和鏡（12世紀中葉・京都産） ・コイル状装飾品→国内で北海道のみの出土であり、北方大陸産の金属製品。道内数例に限られ、最多数出土。 ・鉄製ワイヤー状腕輪→本州に出土例が無く、腕輪装着の習慣も無いことから、コイル状装飾品同様に大陸系製品と思われる。

- ・上記の多数の指定文化財を、同種のものが多数あるもの等を除き、（仮称）アイヌ歴史文化センターに展示する場合、少なくとも180㎡の展示室が必要。

○カムイノミ・イチャルパの実施

指定物件にはお墓から出土した副葬品も含まれていることから、厚真アイヌ協会との事前の情報共有を進め、御理解を頂いているところであり、アイヌ協会が平成16年以降、16回実施しているカムイノミ・イチャルパについても引き続き協力。

※遺骨について

- ・平成28年には厚真アイヌ協会から町長宛に、当時札幌医科大学で保管されていた発掘出土人骨を故人のふるさと厚真へ戻し、町教委で保管していた副葬品とともに丁重なる安置と、カムイノミ・イチャルパという伝統的先祖供養への協力依頼などの要望書が提出された。
- ・札幌医科大学保管の出土遺骨の地域返還は、文科省への諸手続を経て令和3年9月に厚真アイヌ協会へ返還され、厚真アイヌ協会主催により、町長、教育長、議長も参列し、軽舞遺跡調査整理事務所でイチャルパが執り行われた。
- ・発掘調査で見つかったアイヌ遺骨は、文化財保護法のもと文化財としても取り扱われることから、現在は軽舞遺跡調査整理事務所の遺骨安置室にて、副葬品と共に丁重なる保管、安置をつづけている。
- ・より良い発展的多様性をもつ社会への責務、貢献として、以上のような法的根拠や社会的流れに基づき、地元アイヌ協会の意向も踏まえて、副葬品の展示には同じ建物内で遺骨も安置・保管する必要があることから、仮称アイヌ歴史文化センター内に遺骨安置室を設ける。

2 さらなる利活用とアイヌ民族・文化への理解促進

○アイヌ政策推進交付金の活用

●交付金の概要（内閣官房アイヌ総合政策室）

- ・令和元年度制定のいわゆるアイヌ施策推進法に基づく交付金
- ・文化振興事業 ・地域・産業振興事業 ・コミュニティ活動支援事業
- ・交付率8割、残り2割のうち半分は特別交付税措置。実質1割の自治体負担。
- ・国は年間20億円の財源確保
- ・令和4年度は31自治体が申請・活用中

※日胆地区では壮瞥町・安平町・厚真町以外の15自治体が活用。

●申請にむけて内閣官房アイヌ総合政策室と調整中（アイヌ施策推進地域5ヵ年計画を検討中）

●調整中の5ヵ年地域計画案

- ・歴史文化を活かした観光・地場産業振興政策
 - 観光プロモーション事業
 - 教育旅行推進事業
 - アイヌ文様バス（ワゴン車）運行事業
 - 特産品（ハスカップ・ホッキなど）開発事業
 - 飲食店・旅館業関係利用促進事業
- ・歴史文化発信事業

発掘成果に基づく講演会や見学会

出土品復元・HP作成

仮称アイヌ歴史文化センター展示関連備品購入

各種道内外・海外交流事業

※今後、町長部局とも連携した活用案により幅広い運用を検討

3 長期的展望

○仮称アイヌ歴史文化センター

- ・アイヌ文化財に係る文化振興施策にあたり仮称アイヌ歴史文化センターを核・象徴的施設に位置付け。
- ・センター開設後の常設展示公開により、いつでも誰もが貴重なアイヌ文化財を見学し、アイヌ民族の文化、歴史を学べる場を提供。
- ・一連の公開すべき文化財の展示には映像展示スペースも含め、今後の仮称アイヌ歴史文化センターの基本設計等で詳細に検討。
- ・町民へのアイヌ民族・文化への理解促進に努め、明治時代以降の農業の町厚真との相互連動・共生の認識を高め、多世代にわたる教育的効果や多様性による豊かな厚真町のイメージを町民へ発信。

○白老町や平取町などとの広域連携

- ・対外的には厚真町はアイヌ文化の歴史を前面に押し出し、白老町の国立アイヌ民族博物館ウポポイや平取町二風谷地区のアイヌ文化資源との広域的連携を検討。
- ・空港や港湾に最も近い地理的好条件を活かし、道内外からの修学旅行生の受け入れなど厚真町の交流人口増加にも寄与し、学習的効果のほか、地域産業等への経済的効果にも資するよう検討。